

ハナカジカで表彰状

日野沢森林愛護少年団
環境大臣表彰を受賞



表彰状を手に笑顔を広げる日野沢森林愛護少年団のメンバー

日野沢小学校（佐々木政文校長・児童8人）の全児童で構成する日野沢森林愛護少年団が地域環境保全功労者に選ばれ、環境大臣表彰を受賞しました。

同団は約13年間にわたりハナカジカの人工ふ化や生息環境の調査・保全に取り組んできました。絶滅の恐れのあるハナカジカの人工ふ化は全国的にも貴重な取り組み。人工ふ化は、5月に川で卵を採取するところからスタートします。成長させて川に放流する10月まで、子どもたちは毎日交代で世話をし、状況を細かく日誌に記録。ハナカジカが生息する川の水質調査や水質を維持するための清掃なども行っており、これらの活動が全国で高く評価されました。

団長の鹿糠麻紀さん（6年）は「毎日の世話は大変だけど、ふ化するとうれしい。みんなが真剣に取り組んでいる成果」と笑顔。最年少の皆川萌々花ちゃん（2年）も「2年生までは見学だけ。早く3年生になって一緒に活動したい」と意欲をみせていました。



菅原副市長から認定証を受ける爽聖くん（中）

ご愛顧ありがとうございます 入館者もぐらんぴあ120万人、 レトロ館1万人達成

地

下水族科学館もぐらんぴあ（山崎毅館長）の入館者が6月8日、120万人を達成しました。見事120万人目となったのは、大船渡市から家族ら6人で初めて訪れた千葉爽聖くん。1歳のラッキーボーイは、お父さんの善博さんの腕に抱かれながらニコニコと喜んでいました。セレモニーでは菅原和弘副市長から認定証のほか、副賞としてもぐらんぴあペア入館券、新山根温泉ペア

ませ土風館内のレトロ館（中野正利館長）の入館者が6月12日、1万人を達成しました。1万人目となったのは、八戸市の養護老人ホーム長生園21人の皆さん。代表して古川清子さんが、達成記念のお買い物券

を中野館長から受け取りました。初めて久慈を訪れたという古川さんは「来る前から楽しみにしていた。展示されている物のすべてが懐かしい。帰ったら、この良さをみんなに伝えたい」と、大満足の様子。中野館長は「予想よりも早い時期に達成できてうれしい。今後はイベントの開催や展示品の入れ替えも考えていきたい」と意気込んでいます。

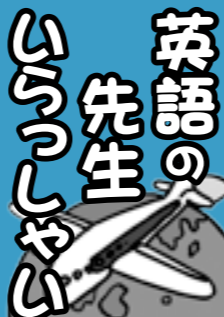


中野館長から記念のお買い物券を手渡される古川さん（左）

6月10日、市の英語指導助手のエリザベス・パッセラーさんが着任しました。エリザベスさんは、5月に帰国したメリッサ・ボックホールさんの後任。任期は2年間の予定で、市内の13小学校、3中学校で英語の指導にあたります。「子ども」と「教えること」が大好きというエリザベスさんは、本市の姉妹都市フランクリン市にあるフランクリン大学を卒業したばかりです。趣味はスポーツで、前は短距離走や砲丸投げの選手だったとのこと。今年の冬はスキーにも挑戦してみたいそうです。皆さん仲良くしましょうね。



英語指導助手
エリザベス・パッセラーさん



指導者としての抱負を語る二十山親方。右は妻雅美さん

応援しよう新たな挑戦 二十山襲名披露・栃乃花引退慰労会

本市山形町出身で、1月24日に大相撲を引退した元小結栃乃花の二十山親方（本名谷地仁）の襲名披露・引退慰労会が5月31日、市内のホテルで開かれました。慰労会には後援会のメンバーなど約150人が出席。13年間にわたる土俵生活の苦勞をねぎらうとともに、指導者としての新たな挑戦を激励しました。

この日は、慰労会に先立つて後援会の総会も開催。「栃乃花後援会」を解散した後、新たに「二十山後援会」を設立しました。後援会では、親方としての初仕事となる8月の大相撲いわて巡業などを支援することを決定しました。



意地と誇りで角を突く 平庭闘牛大会つづき場所

東北で唯一の闘牛大会、平庭闘牛大会つづき場所（いわて平庭高原闘牛会主催）が6月15日、平庭高原闘牛場で開催され、約1200人の観客が牛たちの迫力ある取り組みを楽しみました。

中が興奮に包まれました。

今場所は本市産の牛のほか、闘牛の本場鹿児島県徳之島で活躍した牛など全32頭が出場しました。全16番の取り組みは大迫力。大きいものだと800kgを超える牛たちが闘牛場を勢いよく駆け回り、意地と誇りをかけて角を突き合いました。興奮した牛が地面を蹴り、土煙をあげると会場から「オー」と歓声が。中でも久慈パンドと平庭嵐の横綱同士の取り組みは、激しい角の付き合いが繰り広げられ会場

全国闘牛サミット
本市開催が決定

鹿児島県天城町で5月4日、第11回全国闘牛サミットが開かれ、来年の開催地が本市に決定しました。この決定を受け、いわて平庭高原闘牛会の松坂義雄会長は「全国に闘牛の素牛を供給してきた山形は闘牛のふるさとでもある。サミットを成功させて、久慈の魅力アップにつなげたい」と意気込んでいました。同サミットには沖縄県や新潟県などから9市町が参加。久慈と闘牛を全国に発信する絶好の機会です。みんなで闘牛を盛り上げていきましょう。

—平庭闘牛大会を訪れたファンの声—



さきだいらこういち さん 香子さん（滝沢村）

平庭は闘牛と出会った場所です。牛の角突きと奥深さにはまり常連になりました。今場所は前半の取り組みから角突きが見れたほか、牛が転ぶハプニングもあり見応えがありました。次回も楽しみにしています。

全国闘牛サミットとは

全国闘牛サミットとは、全国で闘牛を行っている9市町の関係者が集まって、闘牛をより盛り上げるために意見を交わし、交流を図るものです。最大の闘牛イベントともいえるこのサミットでは、闘牛文化の振興や観光への活用などについても話し合うほか、全国の猛牛たちが角を突きあう記念闘牛大会も行われます。